

指定整備事業におけるOBD検査の実施の流れ

【DTC照会アプリ】（一般的な流れ）

OBD検査を行う **検査員が自身のID・パスワードでログイン**

《**OBD検査モード**》になっているかの確認

検査用スキャンツール選択（**届出機器になっているか**）

車両情報の入力または読込 ⇒ 確定

OBD検査要否確認 ※

<要否確認の結果、以下の画面が表示される場合があります>

- 「車名選択」画面が表示された場合 ⇒ 車検証上の車名を選択し確定
- 「車両ID入力」画面が表示された場合 ⇒ 電子車検証に記載されている車両IDを入力し確定
- 「その他燃料選択」画面が表示された場合 ⇒ 車検証上の「燃料の種類」や「備考欄」に記載されている燃料をすべてチェックし確定

「OBD検査要」が表示

「OBD検査不要」が表示

OBD検査不要

但し、最終検査実施日時点での判断が必要

車両電源がOFFの状態で検査用スキャンツールを車両に接続

車両のエンジンをON（ハイブリッド車等はREADY）にて
《**OBD検査モード**》画面で、「実行」を押す

OBD検査結果が『適合』となっている場合は
指定整備記録簿に検査結果『良』として記載⇒**OBD検査完了**

※OBD検査要否確認で「OBD検査不可」が表示された場合は
OBD検査コールセンターに問い合わせを行う。

指定整備事業におけるOBD検査Q&A

Q1 DTC照会アプリで実施したOBD検査にて不適合となった場合はどうすれば良いか？

A1 OBD検査結果の詳細にて、検出された特定DTCを確認し、整備マニュアルを参照した上で必要な点検と整備を行った上で再度OBD検査を実施します。

Q2 テルテールの点灯・点滅は無いがDTC照会アプリで実施したOBD検査にて不適合となった。どのようなことが考えられるか？

A2 【確認中※】過去故障等の特定DTCが検出されていることが想定されます。
※現状、機構等で調査を行っており、その検証結果がまだ提示されておりません。
⇒A1の対応へ

Q3 DTC照会アプリで実施したOBD検査にて警告灯判定画面が表示された場合はどうすれば良いか？

A3 改造により排ガス規制の適用が変わった場合、または安全系のOBD検査対象装置との通信ができなかった場合は、警告灯判定画面が別ウィンドウで表示されることがあります。画面の表示に従って運転者席の警告表示を確認し、合否判定を行ってください。

Q4 DTC照会アプリで実施したOBD検査にて排ガスOBD警告灯判定画面が表示された場合はどうすれば良いか？

A4 運転者席の警告表示を目視により確認して、以下の判定を行ってください。
● 排ガスに関連する警告表示がされている場合は、不適合と判定。
● 排ガスに関連する警告表示がされていない場合は、適合と判定。

Q5 DTC照会アプリで実施したOBD検査にて安全OBD警告灯判定画面が表示された場合はどうすれば良いか？

A5 安全系のOBD検査対象装置との通信ができなかった場合、《安全OBD警告灯判定》画面が表示されます。
運転者席の警告表示を目視により確認して、以下の判定を行ってください。
● 安全系のOBD検査対象装置に関連する警告表示がされている場合は、不適合と判定。
● 安全系のOBD検査対象装置に関連する警告表示がされていない場合は、適合と判定。

Q6 運転席のドアを開けると、一定時間経過等により自動的にエンジン停止状態（READY OFFの状態）となる車両があるが、どのようにOBD検査を実施すれば良いか？

A6 運転席のドアを閉めた状態で、アイドリング状態（READYの状態）を維持し、OBD検査を正しく実施することが可能です。
なお、上記以外の方法もありますので詳しくは国土交通省事務連絡「運転席のドアを開けた状態でOBD検査が実施できない車両について（注意喚起）」をご確認ください。

Q7 OBD検査に関する行政処分の規定はあるか？

A7 OBD検査対象車両のOBD検査を未実施の状態で保適証交付した場合、検査の一部を実施せず適合証を交付したとされ、重大な行政処分の対象となります。また、その他にも行政処分の対象となる行為等がありますので、関係法令・通達の規定を熟知した上での運用が必要となります。

＜参考＞日整連HP【OBD検査（車載式故障診断装置を活用した検査）】

<https://www.jaspa.or.jp/member/obd/>

「OBD検査開始に伴い新設された通達等」を参照ください。